

1 開催日時及び場所

○日時 平成 31 年 2 月 18 日 (月) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 52 分

○場所 大船渡市総合福祉センター 大会議室

2 委員数 28 名

3 出席者

○委員 23 名

佐藤勝利会長、小川修委員、大和田洋太郎委員、新沼眞作委員、金野律夫委員、志田安雄委員、新沼良治委員、船野克之委員、佐藤次夫委員、新沼秀人委員、今野隆子委員、及川芳子委員、若林美枝子委員、鈴木ミチヨ委員、岩城幸子委員、今野美彌子委員、小笠原登志江委員、水島隆委員、菊地ゆか委員、金野志津江委員、平山睦子委員、古内裕子委員、後藤俊一委員(生活福祉部長/地域包括ケア推進室長)

○委員代理 1 名

田村敏夫氏(菅野勝嘉委員代理)

○オブザーバー 2 名

木下雄太第 1 層生活支援コーディネーター

○傍聴 1 名

熊谷満恵綾里地区まちづくり推進協力員

○大船渡市 7 名

地域包括ケア推進室 6 名

次長 金野高之、主幹 佐藤かおり(長寿社会課課長補佐)、主幹 鈴木弥生、  
主幹 大和田和枝、係長 佐藤由美子、係長 白土美都

市民協働準備室 1 名

係長 菊地正展

4 会議の概要

金野次長の司会により、後藤生活福祉部長あいさつ、佐藤会長あいさつを行った。

続いて、金野次長から、委員 28 名中 24 名の出席であり、委員の半数以上の出席があることから会議は成立する旨を報告。

議事に入り、ここからは設置要綱第 4 第 2 項の規定により、会長が議長になることから、佐藤会長が議長となり進行。

始めに、事務局から、以下の(1)～(5)まで報告を行い、質疑並びに意見交換を行った。

- (1) 大船渡市地域助け合い協議会等の開催状況について
- (2) 各地区における地域助け合い協議会の設置・運営の状況について
- (3) 大船渡市地域助け合い創出研究会の開催状況について
- (4) 大船渡市生活支援コーディネーター等情報連絡会の開催状況について
- (5) 平成 31 年度大船渡市地域助け合い協議会等の開催計画について

- 質疑・意見交換 -

〔新沼秀人委員〕

助け合い協議会の話ではないが、今後、協働の取組はようになっていくのか。助け合い協議会との絡みはようになっていくのか。

〔佐藤勝利会長〕

1月15日に開催した地区公民館長会議(市民協働準備室主催:第1回大船渡市まちづくり推進員及びまちづくり推進協力員懇談会)でも話が出ている。今、注目されているところであり、後藤部長、何かお話出来ることがあれば発言願いたい。

〔後藤生活福祉部長〕

市では昨年の夏頃から各地区を回り、市民協働のまちづくりということで、その当時は地域運営組織と言っていたが、今現在は地区運営組織と改めている。そのような組織を立ち上げたいということで、説明してきた経緯があり、年明けからは、(仮称)協働まちづくり部を立ち上げるという方向で、市議会全員協議会で説明した経緯がある。

その経緯は、地元紙等でも報道されているので、皆さん承知していると思うが、去年の地区懇談会を総括すると、限られた各地区の役員の方々等の参加のもとで、住民の皆様方も理解度が進んでいないのではないかという意見があり、市が考えている、地区に分かれた場合の財源の問題もあるのではないかということと、さらにお話すると、旧三陸町と旧大船渡市では公民館の捉え方について、地域公民館、自治会の扱い等の考え方の大きな差異があるということで、これらの考え方を整理する必要があるんじゃないかということで、様々な議論があったところです。

議員からも様々な意見が寄せられ、これまでの市の取組を総括して、地域助け合い協議会との整合性とか、さらに整合を図ってから進めてもよいのではないかというような意見が大勢を占めたところです。

そのような意見等を踏まえ、企画政策部では、4月からの部の設置については、もう一度仕切りなおしてから進めたらよいのではないかということで、今日に至っています。

〔佐藤勝利会長〕

新聞等でも大分報道がなされたほか、市議会で市民に対する報告会というのがあり、その時もそんな話が議員からも出されましたが、これはこのまま延期していくということか、それとも取りやめるということか。

〔後藤生活福祉部長〕

市民協働準備室はそのまま継続、今は企画政策部の傘下にあります。その準備室の機能を残して、各地区の意見を吸い上げながら、或いは、この市民協働という考え方・住民組織の立ち上げという考え方は全国的な流れとして、徐々に浸透しつつあるんだろうと思います。その流れに沿った形で進めたいというのが、企画政策部、市の意向で、もう一度、論点と言うか、課題等も整理しましょうということです。30年度に検討してきた事項について、引き続き、検討を深めていくという考えです。

〔佐藤勝利会長〕

今の説明で、市民協働準備室の職員の方が、それでよろしいですと返事をしましたので、それでよろしいだろうなと思いますが。

〔市民協働準備室:菊地係長〕

後藤部長の話のとおり、今後も検討を深めていくということで、取り組んでいます。本日は

ら、各地区公民館を回らせていただき、1月15日の会議でお話仕切れなかった部分、先程の新聞報道で様々出たことについてもご説明に伺っている状況です。

[菅野勝嘉委員代理:田村敏夫氏]

公民館の立場から言いますと、助け合い協議会は福祉の方で主体的に進めてきたもので、地域でやる場合は、助け合い協議会というのはないので、やはり公民館が中心となって動かなければならないというのが実態です。市内における地区版の助け合い協議会は、公民館とは全く関係なく組織を作ったという所がないということで、佐藤会長が冒頭に言ったように、2025年には、75歳の団塊の世代が大幅に増えるという危機感を持って、地域でもというのは十分分かりますし、その意味では従来の公民館と切り離して、このことを進めるというのは非常に難しいんじゃないかなという風に思います。

現実に、助け合い協議会、中央公民館、教育委員会からの文書というのは、場所は違うんですが、中味的には「地域のまちづくり」という点では全く一致していて、私は持論としては、27年度から助け合い創出研究会に参加していますが、是非、地区ではなくて、地域の公民館長さんなりを入れて、勉強会をした方がいいんじゃないのかなという風に言ってきたつもりです。

この間の館長・主事会議でも、その後の新聞を見てもそうですが、助け合い協議会はあくまでも福祉の方であって、地区センター方式は、教育委員会、中央公民館ということで議題としては何もなかったような気がします。

その後に、僅かながら、将来的には助け合い協議会も組織の中というように一文がありました。今こうして地域が動いているので、動いている大半が地域の地区の公民館のメンバーが肩書きを背負って活動しています。そこをやっぱり一つにして、大船渡市としてこうして取り組むんだということ、是非示していただきたいと思います。

さらに、今日の会議案内が、佐藤会長から協議会委員あてで届いているんですが、後藤部長からも案内をいただいている、どういうことなのかなと思いますが、そういう点もこれからは一つにしていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

[佐藤勝利会長]

二人各々から案内があったというように話されましたが、そこを確認します。

[白土係長]

本協議会は、助け合い協議会の会長が、佐藤勝利さんということになっていますので、佐藤会長名で皆さんに案内をしましたが、二重に案内があったということがありますか。

[佐藤次夫委員]

田村さんが言っているのは、資料の送付のことで、後藤部長の名前があるが開催案内と違うのでどうなんですかということだと思います。

[白土係長]

助け合い協議会の事務局ということで、地域包括ケア推進室の名前で出させていただきました。ちょっと誤解があったかと思いますが、次回から気をつけます。

[後藤生活福祉部長]

会議の招集については佐藤会長さんの名前で、資料の送付については、私が地域包括ケア推進室の室長を兼ねていることから、室長名で送付させていただいたということです。

1点目の地区運営組織と助け合い協議会の関係ですが、地域助け合い協議会は、国の介護保険制度の財源を目的として、いち早く立ち上がりました。助け合い協議会は、高齢者福祉に重

点を置いた取組、協働まちづくりは、田村委員ご発言のように、市全域でのまちづくりに関わることであり、昨年の各地区に市民協働準備室でお邪魔して説明した際にも、市外の例を何市かご紹介しましたが、運営組織の中の例えば福祉部とか一つの組織の一翼を担うということで、福祉部とかそういう福祉部門に特化した部分に、助け合い協議会がスライドしていけば、今後の展開としては、一つの望ましい格好になっていくのではないかなと、いずれ、そうじゃなければならないというわけでもないで、大船渡のオリジナルによる組織体制を今後詰めていきたいと思います。地区運営組織と助け合い協議会と弊害があるというお話でしたが、そういう弊害も一つずつ解消しながら、簡略化した大船渡市独自の協働組織が立ち上がっていければいいのかなと考えています。

[佐藤勝利会長]

今、田村さんがお話したのは、協働のまちづくりの関係と助け合い協議会の関係が別々な組織になっているというのは、非常にやりにくい。田村さんの言うことは、本当に貴重な意見だなと思いますけれども、本当は、簡略化するために協働のまちづくりの準備室が出来たんじゃないのかなって思いますが、その辺を一緒に考えながら、活動がしやすい方向に持って行ってほしいと思います。

[後藤生活福祉部長]

これからはそういう風に一本化するのが確かに望ましいんだと思います。地区運営組織を立ち上げるまでに、やはり各地区の温度差があると思います。助け合い協議会は、蛸ノ浦がいち早く立ち上がったわけですが、4年経って、ようやく市内全域に浸透しようとしてきていて、この地区運営組織についても、それぞれの考え方というか、地域事情というのがありますので、なかなか一概にはいかないというのはそのとおりだと思います。

議員さん方から様々な意見をいただいたのもそのとおりですので、そういった点を一つひとつ解消しながら、より良い方向に持っていくというところで市民協働準備室が今後も事務を推進していくということですので、様々な意見があっても当然かと思えます。そういったこと等を何なりとお聞かせいただければと思いますので、よろしくをお願いします。

[佐藤勝利会長]

今野美彌子委員、何か感じる事とか、感想とかありましたらどうぞ。

[今野美彌子委員]

盛地区、吉浜地区の助け合い協議会で広報を出しているのは、各地区のお手本だと思います。各地域の町民が協議会がどのような活動をしているかということを知る上でも、まだ広報を出していない地区では参考になると思います。

日頃市地区、吉浜地区、蛸ノ浦地区では、住民支え合いマップ作りをしています。この包括ケアのまちづくりというのは、一人の孤立者も出さない、手を差し伸べていくというような趣旨ですので、マップ作りをして、一人暮らしの方や日中夫婦二人だけになる家庭等を見守っていく方々が、どのお家がそうなのかということ把握することができます。

各協議体には消防団等様々な団体が入っていますが、例えば食生活では、地域で減塩の食事を作り、その方々に持っていかというようなことにも繋がってきます。そういったことがもっとスピードを持って広がっていければ、地域の孤立しているような、助けてほしい方々が元気になると言うか、そのようなことが起きるのではないかなということで、助け合い協議会の活動がますます盛んになればいいなと思いました。

[佐藤勝利会長]

今野委員からは、感想ということで、是非こうあって欲しいなということでしたので、それは皆さんもご理解をいただきたいと思います。それでは、岩城委員、何か感じたことがありましたらどうぞ。

[岩城幸子委員]

私は、介護の仕事としてケアマネジャーをしています。今回、市内でも高齢化率や認定率が、こんなにも大きな差があるということを知ることが出来ました。日頃市地区や綾里地区では高齢化率が40%を越えていて、認定率も日頃市地区は20%を越えています。それに従い、サロンの数もちよっと差があるのかな、高齢化率が高いとサロンに参加する人も少なく、運営も大変な部分も出てくるのかなと思いました。そこで、その地域差ということに対して、何か行政の方で協力体制はあるのですか。

[鈴木主幹]

基本、サロン活動というのは、地域の皆さんの自主活動であり、この地区に作って下さいというのはありませんが、市では、既に活動をしているところには、講師派遣や助成制度も用意しています。新たにサロンを作りたい場合は、地区の助け合い協議会の方とも協力し、立ち上げに関する支援や相談には随時対応していきたいと思っています。市内各地で様々な形でサロンが運営されていますので、例えば上手くいっているところとか、新たに作りたいサロンがどのような目的の所かという所かについて、それに合わせた情報提供や、サロン同士の交流等、要望があれば様々な対応していきたいと考えています。

サロンの担い手が本当に不足していますので、それぞれの地域でバランス良くというのは、なかなか難しいと思いますし、既にサロンを運営している所でも、一人に負担がかかっているというようなことや、担い手がないという問題もあります。また、市のボランティア養成講座等で、サロンの担い手やこれからサロンを開催したいと考えている方々にも、拠り所になるような機会を提供しています。まだまだ不足していると思いますので、皆様のご意見等を伺いながら、こちらでも出来ることがありましたら、随時、事業も検討していきます。

[佐藤次夫委員]

高齢化率が40.2%という例が出ましたので、綾里地区のサロン活動についてお話しします。

地区内の8つの地区に高齢者の組織があります。その8つの地区では、共同募金会からの助成金をいただき、お茶会等のサロンをしています。資料2の公開サロンの数の中に、それが入っていないのではないかなと思いますが、残りの3地区については、綾里地区助け合い協議会で、「生活支援推進員」という方を設置して、老人クラブ等のない地区でサロンのようなものを開催していきたいと考えています。

[大和田洋太郎委員]

大船渡町は約8,000人の人口であり、統一した活動は出来ませんので、手法はそれぞれ違いますが、地域公民館毎にそれなりに活動しています。

先程から男性の参加が少ないという話が出ていますが、私が所属している下船渡町内会には、下船渡地域公民館と宮ノ前地域公民館があり約400世帯あります。シニアクラブと昔からあるものでは観音講というものがあります。観音講は、女性の方々に主に60歳以上の方々が入っていますし、シニアクラブは、60歳以上の男性の方々です。

どの公民館にも自主防災組織というのがあり、それぞれの立場で活躍するものですが、あのよう

な津波等が起きますと、自分の家族や親戚、或いは、会社等、そちらの復旧・復興の方に携わり、自主防災組織の活動はほとんど出来ない状態になります。名前だけは、沢山役割がありますが、実際の人はいません。

その時、私は自主防災組織の責任者でしたが、一番助かったのは、シニアの方々の力でした。仕事は退職して被災を免れた方々が何人かいるわけです。その方々が、自主防災の運営を非常に助けてくれました。そのおかげで、各部長・各係は、自宅・親戚の片付け、或いは搜索、会社の清掃に出かけることが出来ました。

それで、シニアクラブを立ち上げました。町内会から年間 4 万円の補助を出しました。現在は 34 名が年に 4~5 回集まっています。場所は下船渡公民館、年間の活動は主に社会貢献活動です。国道 45 号線の道路清掃やゴミステーションのペンキ塗り、網の補修等、様々です。その他に、温泉旅行等の楽しみもあります。何か活動を終えたらお茶ですが、男ですからお酒、これが楽しみです。その都度千円ずつ集めています。34 名のメンバーのほとんどが参加しますし、ごくろうさんと言いながら、飲んだり食べたりします。桜の時期には、桜の下でやるわけです。そういう方々が集まっているのが、シニアクラブです。

社会貢献活動は必ずやろうという意識になっていることと、もう一つ大事なものは、シニアクラブを私達の自主防災組織の一員に組織付けました。そうするとこの方々が持っている経験が、災害時に活かせるということです。この頃は、大分運営がよくなりまして、町内会からの補助金は貰わずに会費だけで運営出来る組織になりました。辞めるのも自由、入るのも自由、楽しくやっています。こういう男の組織もいいもんだなと思っています。

[佐藤勝利会長]

大変貴重な団体でもあり、私達に希望を与えてくれるようないい会だなと思いますし、皆さんも多分そう感じられたと思います。

最後に、私から市がやっているタクシーチケットについてお話します。市では、市民の移動手段ということで、日頃市地区ではデマンドバスによる送迎とか、三陸町では患者輸送バスへの乗車を行っていますが、盛・猪川・立根地区等では、タクシーチケットを利用出来ます。

昨年冬は結構雪が降りました。毎週、歌を唄うのを楽しみに高齢者がカメラホールに集まってきました。ただ、旭町とか山側の方々は、道路が凍結すると怖くて来られないので、何かいい方法はないでしょうかと言われたことがきっかけで、市の方に相談してみました。

例えば、盛駅から大船渡病院まで行くのに、タクシー一台で千円かかったとします。このチケットを使えば半額の 500 円になります。タクシーは最高 4 人乗れますので 4 人で大船渡病院に行った場合、500 円の 4 分の 1、一人 125 円でバスよりも安いというわけです。このような利用の仕方がありますよということで、昨年からは館報や助け合い協議会の広報に何度もこの方法を掲載しました。

今年度、盛地区のタクシーチケット利用者は、1 月末で 44 人に増えました。週 1 回のサロンに通うにしても、上手くタクシーを使えば、100 円ぐらいで行けるわけです。買い物とか病院とか何人かで組んでいくようにすれば、かなり安く移動が出来ます。しかも安全に。是非利用していただければと思います。